

風まち・潮まち・港町

みたら・通志

【特集】

御手洗みらい塾

人が集まり、出会い、語り合う

懐かしの昭和展

・スローライフのすすめ

・談義しましょう、語りましょう。

・海上雅楽コンサート

●御手洗ものがたり

「御手洗みらい塾'04」を終えて

●なんでも伝言板

・「安芸灘交流館」来春いよいよOPEN

・黄金の島でみかん狩り

・せとうちおさんぽクルーズ第3弾



豊町観光協会

富盛

みたらい通志

2004.10. NO.14

観光協会設立一周年を迎えました。観光事業に暖かいご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

広島オレンジ会から参加案内があり出席し、観光取組への現状・思いをお話させていただきました。七十余名のご参加でふるさと豊町への思いが熱く伝わってきました。来年は五周年を節目に観光協会広島支部を設立する計画とか。大変ありがたく盛大で有意義な会で心から感謝いたします。また、今号より「みたらい通志」の発行が豊町商工会から豊町観光協会へと変わりましたのであわせてご報告させていただきます。

今後共にご指導ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

(豊町観光協会会長 村尾征之)



(写真上)「なつかしの昭和展」が開催された住吉通りの船宿三軒長屋。お盆の開催とあってお隣の船大工宮本さんもこの日は大忙し。たくさんの人で賑わった。

(写真中)色鮮やかな住吉神社の提灯。海上に響く雅楽の音で神秘的な時間が流れた。

(写真下)海上雅楽コンサート舞台となった帆船打瀬船。お昼前、内海町より御手洗港に到着。



[表紙の写真]

昭和30年代の御手洗の庶民の暮らしを再現した「なつかしの昭和展」ちゃぶ台、おひつ、扇風機…。そういえば、こんな暮らしが昔あった。



特集 「第1回」 御手洗みらい塾

人が集まり、出会い、語り合う

瀬戸内海のへソ、大崎下島豊町「御手洗」
国の重伝建地区に選定されて10年目の夏、
この御手洗にたくさんの方が集まった。そして語りあった。
島のこと、町のこと、御手洗のこれからのこと。

■重要伝統的建造物群保存地区選定10周年記念イベント
開催／2004年8月13・14・15日

※重伝建とは国選定重要伝統的建造物群保存地区の略称。御手洗は1994年に選定された。



鉄人28号のお面セルロイドでできたヒーローのお面は緑日の主役。月光仮面、鉄人28号、鉄腕アトム…。高いのでなかなか買ってもらえなかった。

月光仮面や鉄人28号、モノクロテレビのヒーローに夢中になった。駄菓子屋の店先、ラムネの瓶、カラフルなホウロウ看板、ビー玉にメンコ、狭い路地裏が子どもの私たちの絶好の遊び場だった。

懐かしの昭和展

御手洗みらい塾



駄菓子とちやぶ台のある風景
上／船宿入口には駄菓子屋の店先の演出。ケースの中のお菓子はスタッフが広島まで買い出しに。
右／大人気だったちやぶ台のある茶の間。展示品はすべて島内で揃えた。



レトロなホーロー看板

写真入りのホーロー看板といえばこのボンカレー。松山容子さんのCMでおなじみ。牛肉、野菜入りと大きく書いてあるのがおもしろい。まだレトルトという言葉はなかった。木村昆さんのオロナミンCの看板もあった。

手動式かき氷機

シュッシュュと氷の削る音はまさに夏の風物詩だった。後にモーター付の自動式が出たがちょっと味けない。イチゴ、レモン、ミゾレ…。練乳をかけるるとちょっとゴーカになる。

ままごとセット とういえば女の子はこんなセットでよくままごとをしていた。カルピス、紙のフタの牛乳ビン、日東紅茶の缶が懐かしい。たまに、お父さん役で誘われたことがある。





ビー玉とメンコいくつ持っているか、その数や種類が自慢になるのがビー玉とメンコ。買って増やすのではなく勝って増やす。子ども心に戦いはまさに真剣勝負だった。パーチャルではないのだ。

着せ替え人形紙製の着せかえ人形も当時流行った。紙に印刷されたキャラクターや洋服をハサミで切って重ねるだけなのだが、これだけで女の子はストリーをつくりながらままごとをしていた。良きアナログの時代だった。



パソコンもケイタイもなかった時代、決して豊かではなかったが、毎日がキラキラ輝いていた。小さなちやぶ台を囲んで家族で食事をしていた頃がなつかしい。

「そういえば、昔、こんな暮らしがあったなあ」今回の御手洗みらい塾の特別企画展示として行われた「なつかしの昭和展」は連日大盛況。会場となった船宿跡（三軒長屋）は3日間まるごと昭和の博物館となった。主に昭和30年代の暮らしにスポットをあてたというこの企画。担当した展示スタッフの熱の入れようはスゴイ。1階入口が駄菓子屋の店先の演出、その奥がちやぶ台のある茶の間。2階は30〜40年代の駄菓子屋グッズの展示。なかでもちやぶ台のある茶の間再現は、まるで「あの頃」に舞戻ったようだと訪れる人の郷愁を魅了させた。また中年世代男性にとってはビー玉やメンコも懐かしい。「ワシはこんなふうにして遊んだわい」「メンコはパッチン言いよったのう」と駄菓子屋談義に花を咲かせた。パソコンもケイタイもなかった時代、決して豊かではなかったけどそれなりに毎日楽しかった。「なつかしの昭和展」のぬくもりは人々の心にじんわりと響いてきた。



伊賀の影丸の日光写真
鉄腕アトムや伊賀の影丸、当時のヒーローたちの姿を太陽の光を使って印刷紙に焼きつけるシステム。単純な写真の原理なのだが、幼い頃は不思議だった。



レトロな自転車 会場入口に置いてあった古い自転車。じつはコレ、お隣で船の模型をつくっている船大工の宮本さんの愛車。もちろん現役。台風19号も乗り切った。



氷で冷やす冷蔵庫 電気のない冷蔵庫が登場する前はこんな木製の冷蔵庫が使われていた。ただ一般家庭ではスイカやビールは井戸水や川で冷やしていた。その上の電気釜は昭和30年に登場した画期的な商品。その後、テレビ、冷蔵庫、洗濯機は俗に「三種の神器」と呼ばれた。



スローライフの すすめ

港町交流館で行われた記念講演は、前広島市長で中国地域づくり交流会会長の平岡敬さんの「スローライフのすすめ」。「豊かさというのは早さではない、効率やスピードを優先する工業中心主義から地場の食や本来のゆとりを求める時期にきている」と提唱した。その後、みんなで車座になり、第2部の「談義しましょう、語りましょう」へ。当日は、お盆とあって、地元の人はもちろん、帰省した懐かしい顔や島外から訪れたファンも集まった。「御手洗から見る月の美しさは格別」と語るのは町内の鞆田さん。「ふる里を守ってくれている皆さんに感謝している何か手伝いたい」と帰省した稲田厚子さん。御手洗の魅力、自分とのかかわり方など、それぞれの熱い思いを語りあった。

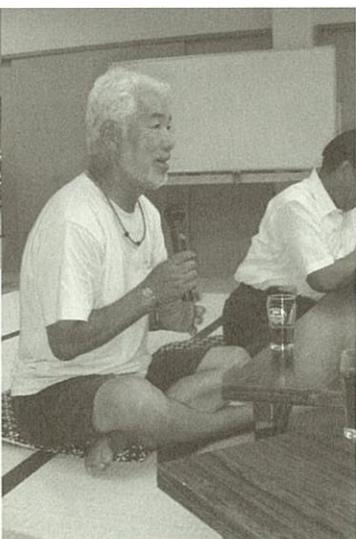


御手洗はその昔新聞記者時代に数回訪れたことがあるという平岡氏。「ずいぶんキレイになりましたネ」と重伝建に選定された御手洗の変ぼうぶりに驚かされていた。講演後に行われた「談義しましょう」にも参加されて、御手洗への思いを語っていただいた。

豊かさというのは
早さではない。
効率やスピード優先の
社会から地場の食や
ゆとりを求める暮らしへ



「若い頃は勉強せずに遊んでばかりいた、ずいぶんふる里を離れていたが、この年になって改めて町のために力になりたい…」と語る長久邦俊さん(写真右)。今回のイベントスタッフとしても大活躍された。他にも「談義しましょう」では出身者や島外ファンにより、たくさんの貴重な意見が出た。



談義しましょう

語りましょう ⑤

海上雅楽 コンサート

ステージは港に浮かぶ打瀬船、
客席は住吉神社の大雁木。
波よけ風よけは千砂子波止、
高燈籠と灯台に火がともり、
ライブは始まった。

住吉神社前の大雁木がそのまま客席に。まるで江戸時代の港町の賑わいが戻ったようだ。船の上では「舞」も披露された。



演奏会が終わったあと港町交流館での打ち上げの様子。町の人も大勢参加し、盛り上がった。



右／雅楽はスローミュージックだと言う三浦さん。打瀬船の上で。
上／千砂子波止に囲まれ、波もおだやか。江戸時代の港町がそのまま演奏会場に。



御手洗みらい塾のイベントのとり
をつとめたのが海上雅楽コンサート。
日没後、住吉神社前の港に停泊する
打瀬船の上で行われた。「船の上を
ステージにして雅楽の演奏をやって
もらえないだろうか？最初、依頼が
あったときはびっくりしました」と
語るのは、兵神雅楽会主宰の三浦進
さん。当初揺れが心配されたがこの
日は波もおだやか。灯台の明かりを
背に笛や太鼓、幻想的なムードが流
れ、観衆は大雁木に腰をかけ雅楽の
演奏を楽しんだ。



御手洗ものがたり 14

「御手洗みらい塾'04」を終えて

瀬戸内海のへソ、御手洗にできること。



御手洗の、重伝建のこれからをみんなで考える。何ができるか、何をすべきか…。今回のイベント「談義しましょ・語りましょ」では地元の人、出身者、島外ファンが集い、いろんな思いを車座になって語り合った。

なっている。

第三次産業中心の社会が実現する中で、観光産業が重要な位置を占めるに至ったという時代の推移を背景にして、御手洗が再び観光地として生まれ変わろうとしているのである。観光地としての御手洗が甦ろうとしているのである。

しかしながら私たちは「重伝建選定地区」という目玉商品を抱えかねているのではないかと。着地点を見失った飛行機のようになっているのではないかと。少子高齢化、地場産業の不振、交通手段の変遷など内的・外的なさまざまな要因に引き回されるようにして、戸惑い、混乱しているのではないかと。然り、戸惑い、混乱している。

そして、そこに居直ったらどうなるかと考えた。

今回のイベントの隠れた、しかし主たるテーマはその「戸惑い、混乱」すら観光客に開示・提供し、その対処の方策とともに考え提案していただくという「参加」をうながすものであった。今後の観光地づくりは「観光客の参加性」が重要なキーワードになることは、物見遊山中心の観光地の衰退が反面教師として教えてくれている。

安芸灘架橋三号橋が完成すれば、御手洗は劇的に変化せざるを得ないだろう。そのとき御手洗は、観光客にいかなる参加の方法を準備できているのか、が問われる。今回のイベントはそのためのささやかな一歩である。（長濱要悟）

御手洗の発祥は物流の拠点としてであった。北前船が運んでくる物品を買い取り、転売する商社が興隆した。追

っかけるように、北前船の乗組員相手の遊女が生まれ、海の男たちの遊興の地となった。瀬戸内海のご真ん中に、忽然と、巨大な観光地が誕生したのである。時代の波に乗り、御手洗は富み、栄え、やがて時代とともに衰退し、世

に時流れ、世は移り、再び御手洗が観光地になろうとしている。

観光の定義は変わっていた。今や観光とは男の遊びのことではなく、単なる物見遊山でもなく、文化と文化の衝突と言われるようになった。さらに進んで、地元文化の積極的な開示、提供、体験であると言われるほどになり、小泉首相をして「観光立国政策の推進」と言わしめるほどにも重要な産業とも

ゆたかまち句集

十四

夜烏のさえぐ月を啼き渡る

野風呂

観音へ月の一偈を奉る

三余

枯草の紅をふくみてをりしかな

実花

京の旅時雨る、花舗の灯華やかに千代子

ひよんの木といふも大木館の秋

欣一

一院に句会お茶会望の月

夜野火

手にとりて忘れぬ扇脂粉の香

蚊居

波除の内も外にも月の波

桃十

一葉つ、落ちるもみちは一葉つ、ふもとにおくる谷川の水 浄園

俳句・和歌を募集中!

みなさまからの俳句、和歌を常時募集しています。

豊町に限らず、テーマは自由。

たくさんの方の投稿をお待ちしております。

[あて先]

〒734-0302 広島県豊田郡豊町御手洗
豊町観光協会「ゆたかまち句集」係まで

竹原行きの最終の高速船より
夕陽を望む。大長港を出たあたり。

たくさんのお便りありがとうございます。
「みたらい通志」の感想や、
豊町を訪れた感想・豊町への希望なども
お便りください。お待ちしております。

おたより

読者の広場



■…読者からのお便り

★…編集室からのお返事（今回はNが担当）

■四国との人の流れ、物の流れの歴史を知ることが出来ました。郷里を思い強いる思いを持たれ頑張っている人がいること、私共も見習いたいです。熱い思いが一日も早く実を結ぶことを祈っております。また訪れたいと思います。

（小林茂・63歳・愛媛県）

★私たちに熱い思いがあるとしたら、それは郷里が作ってくれた思いなんではないでしょうか。その「熱」を持ち続けたいと思います。

■とても寒い瑞穂町にも一気に春の風が吹きはじめました。過日は21日、石見観光さんにて初めて御手洗の町を訪れました。地元の皆様が歴史と共に大切に大切にしてください。ねえやなぎ、冬椿、どこにでもある花ですが一輪どしに思いを込めて生けられ心温まる思い、これまたとても感動致しました。屋根からの黒猫、白猫に送られて帰途に着きました。今度は主人とゆっくり散策してみたいと思っています。どうもありがとうございます。

ガイド下さったボランティアの方もよろしくお伝え下さいませ！感謝！

（中山英子・島根県）

★ボランティアガイドもすだれの一輪挿しも、御手洗を「ちよつと感じのいい町」と感じていたため努力です。ちよつとだけでいいんです。それが積み重なれば。

■私の母は御手洗の隣島・大崎上島の出身です。今、豊町商工会の中でご記憶の方はい

らっしゃいますでしょうか？祖父は木江で「昭栄館」という映画館を経営しており、仕事柄乙女座のご主人と親交があったと聞いております。私は父の転勤で30年近く広島を離れて結婚して広島に舞い戻ってまいりました。御手洗の言い伝えとして、子供の頃から母がよく話してくれていました。幕末に御手洗の大きな茶屋（若胡子屋か？）のご主人が客間に入ると上座に座布団がものすごく高く積まれ、その上に小さな男の子がちょこんと座り、回りを武士達が囲みひれふしていた。と話し半分は聞いていたのですが「みたらい通志No.13」の「御手洗と薩摩藩」を読ませていただき、もしかしたらその言い伝えのようにその男の子が後の明治天皇かも？秋には主人と御手洗に行く予定です。江戸時代のロマンがたくさんつまっている御手洗、とても楽しみにしております。ぜひ「とよちゃん弁当」を主人と食べたいのでお願い致します。

（藤本千枝・39歳・広島市）

★「とよちゃん弁当」とボランティアガイドは予約が必要です。のでお氣をつけて。

（潮待ち館08466677・2278へご予約ください）



潮待ち館に貼ってあった御手洗みらい塾のポスター

お口に広がる瀬戸内海
東京で大人気の「大長檸檬酒」



■皆さん初めまして、私は大長出身です。高校から田舎を離れ、社会人となり全国各地を転々とし、現在は千葉に住んでおります。毎回母が送ってくれる「みたらい通志」を見て、いつも故郷をなつかしく思っております。No.13にて豊町の特産品「大長檸檬酒」について掲載されておりましたが、千葉の酒屋さんにて取り扱っていましたので紹介いたします。最近はず焼酎ブームで、私も九州に約10年ほどいたこともあり、妻に鹿児島に近所の酒屋へ、なつらんとそこに大長檸檬酒がありビックリした様子のメールが私のところへ。すかさず飛んで行きました。田舎で檸檬酒を作っているとのこと、試飲のために母が送ってくれたのですが、その時の感想は檸檬の独特な匂いが強かったため、この匂いを抑えられれば良いのではないかと話しております。まさかこんなところで製品化された「大長檸檬酒」に再会するとは思いませんでした。酒屋さんに後日聞いてみると、蔵元によく買い付けに行かれるそうで、竹原に買いつけに行った際、夏場にロックで飲むといい感じであり、女性が好まれるのではと購入したそうです。ちなみに酒屋さんの名前は「寿屋」です。もちろん、すかさず購入しましたよ。匂いも抑えられてお

り、我が家の食卓で美味しく頂いております。それでは、皆さん町おこし頑張ってください。（秋光歳英・千葉県）

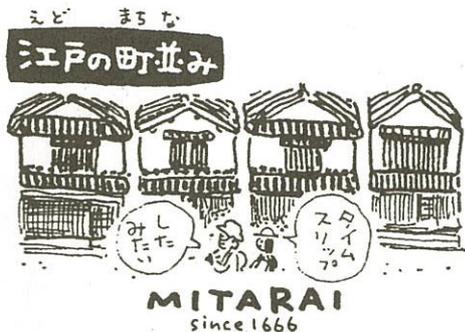
★大長檸檬酒よりや遅れて、「はちみつレモン」が売り出されました。夏には氷水で、冬にはホットジュースにして、焼酎と混ぜても、パンにぬって、もなかでないかな、これが。

■編集後記

読者からのお便りの中に「故郷を思う熱い思い」という言葉があり、ドキリとしました。御手洗が重伝建選定を受けてから早や十年。私たちはあのころと同じように熱い思いを抱き続けていっているのか。マンネリに陥ってはいないでしょうか。そんなことを反省するためにも、そしてこれからのことを考えるためにも、今回のイベントは必要であったし、なかでも「談義しましよ、語りましよう」は、このイベントの白眉であったと思われまます。できれば、少人数でもいいのでこれを来年も続けて行きたいと願っています。（N）



ブリキたいはすイカ、ラムネが冷えていた。「なつかしの昭和展」より



- 寛文6年(1666) 町屋敷割り藩より許され、人家が建ちはじめる
- 正徳3年(1713) 町年寄り(大長村の統轄下)が置かれる
- 宝暦9年(1759) 常盤町を中心とした大火(11月)
- 文化3年(1806) 伊能忠敬が御手洗を測量した(3月1~3日)
- 5年(1808) 町庄屋が独自に置かれる(初代柴屋)
- 文政9年(1826) シーボルトが寄港する
- 11年(1828) 千砂子波止の築造(11~12年)
- 11~13年 住吉神社造営(大坂 鴻池善右衛門寄進)
- (1828~30) ※千砂子波止の築造以後、住吉町の埋立てが進んだ
- 嘉永6年(1853) 吉田松陰が長崎行き途中に立ち寄る
- 元治1年(1864) 三条実美ら五脚が多田勘右衛門宅(竹原屋)に寄寓する(7月22日~24日)
- 明治12年(1879) 御手洗町が大長村より独立
- 昭和31年(1956) 1町2村合併して豊町となる
- 平成6年(1994) 国選定 重要伝統的建造物群保存地区となる

プレゼント コーナ

はちみつレモン 生レモンの詰合せセットを3名様にプレゼント!!

大長レモン 100%!

▲提供/ JA広島ゆたか

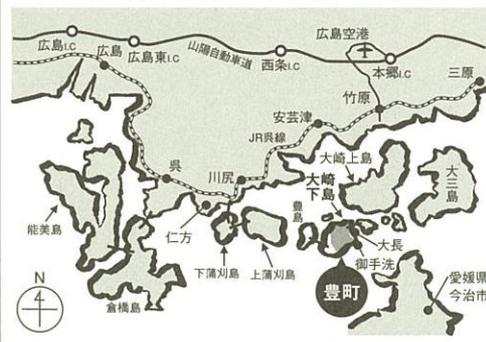
「大長レモンで作ったはちみつレモン」はその名の通り、地元大長産レモンを使った豊町の新しい特産品。「生レモンしほり」と同時に新発売。ただいま人気急上昇です。

■応募方法/ ハガキに「はちみつレモンと生レモンしほり詰合せセット希望」と書いて、住所・氏名・年齢・職業・電話番号、そして「みたらい通志」に対するご意見、ご感想をお書き添えのうえ、下記までお寄せください。抽選で3名様にプレゼントいたします。当選は発送により発表にかえさせていただきます。

■あて先/ 〒734-0302 広島県豊田郡豊町御手洗 豊町観光協会「みたらい通志」プレゼント係

■締め切り/ 平成17年1月31日(当日消印有効)

豊町(御手洗)への交通のご案内



- 今治から大長まで…高速艇で30分
- 竹原から大長まで…高速艇で30分
- 仁方から大長まで…高速艇で30分
- 三原から大長まで…高速艇で55分
- 呉から大長まで…高速艇で1時間
- 広島から大長まで…高速艇で1時間25分(または) 高速バスと高速艇で約2時間
- 広島空港から大長まで…ジャンボタクシーと高速艇で約1時間30分
- 大長から御手洗まで…バスで3分(または) 徒歩15分
- 大長から久比まで…バスで約10分(または) レンタサイクルで20分
- 大長から沖友まで…バスで10分(または) レンタサイクルで25分



観光案内(観光の問合わせ・ガイド申込等)
 ■潮待ち館(豊町観光協会)
 TEL・FAX 08466-7-2278

※情報誌「みたらい通志」は広島市本通り「夢ぶらざ」にも置いてあります。